

生粋の4カムフリークである相川代表（左）とスタッフの高安メカニック（右）。今後はセッティングを重視してドッキングレース参戦も視野にいれているが、なにかとアクティブには今年に入ってからすぐ店舗を移転している。新しい住所は千葉県八街市八街へ199-1123。それに伴い電話番号も043-312-0900に変更となっているので注意されたい。

THE WHOLE OF HOTROD SHOW THE IMPRESSION SPL.

87年にスポーツスターを購入してハーレーライフをスタートし、いまだに自分のレーサーで時折サーキットを走る生粋の4カムフリーク池田と、初めて買ったバイクがXL1200Sで、一時のブランクはあったものの年式/排気量を変えながら乗り継いで4台目となるスポーツスターを今も所有する僕。こんな2人が作るHBJだ。このアイアンに食指が動いたのは必然だろう。

製作はオーナービルダー相川拓也率いる千葉のシュアショット。相川はハーメルを愛機とし、激しく回し過ぎてエンジンを焼き付かせたこともある生粋のスピードフリーク。過去作はナックルやシヨベルなどのビッグツインをベースにしたボバーが多かったため、今回の車両チョイスとコンセプトはやや意外だったのだが、「店のデモ車両でオーナーもいないため、全てを自由に、自分の感性の赴くままに製作することができた」と聞けば納得だ。

最大の見せ場は、厚みから鋼のステール製楕円パイプを手曲げてウォンフルしたリア片持ちスイングアーム。片持ちの場合、スイングアームとチェーンラインを同軸とするのがセオリーだが、そこはあく視覚的インパクトを狙って左右に振り分けた。またオイルタンク容量確保のため、スイングアーム内もオイルタンクになっている。リア片持ち化に伴ってモノサス仕様とするため、錆物ラックのKフレームの後半部分を大幅に改造。スヘースの関係上、モノサスはリンクなしの直押しだ。

もひとつ見せ場は四輪ホットロッドのエンジンから突き出たアイアンのカラムをイメージしたタンクをえぐって装着したハーレー製ダウンドラフトキャブ。キャブを車体中心に寄せるためにインエもワンドメンしている。

走りを意識したアイアンのカラムと言えばタートラがボバーが王道だが、現代的なディテールとアイアンの艶かしい造形が一体となった唯一無二のハイブリッドスタイルを実現している。是非とも走らせてその乗り心地を確かめてみたいマシンだ。



SURESHOT
唯一無二のハイブリッドスタイル
phone 043-312-0900 <http://www.sureshot.jp/>

